

# ノムラ・アジア・シリーズ (ノムラ・タイ・フォーカス)

追加型投信／海外／株式

## 交付運用報告書

第8期(決算日2018年9月12日)

作成対象期間(2017年9月13日～2018年9月12日)

第8期末(2018年9月12日)	
基準価額	16,906円
純資産総額	1,123百万円
第8期	
騰落率	4.5%
分配金(税込み)合計	350円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、野村タイ株マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてタイの企業の株式に実質的に投資を行い、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

当ファンドは、2018年6月8日に信託期間を延長する約款変更を行い、2024年9月12日を信託期間終了日といたしました。

なお、当ファンドからスイッチング可能であるノムラ・アジア・シリーズ(ノムラ・韓国・フォーカス、ノムラ・台湾・フォーカス)につきましては2019年9月12日に信託期間満了となりますのでご留意下さい。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

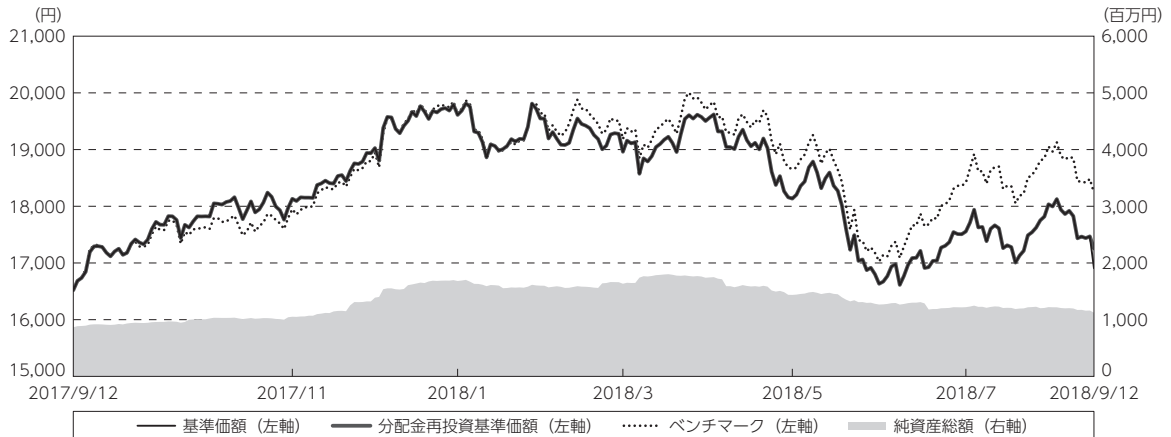


ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2017年9月13日～2018年9月12日)



期 首：16,520円

期 末：16,906円 (既払分配金(税込み)：350円)

騰落率： 4.5% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2017年9月12日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) ベンチマークは、MSCI Thailand Index(税引後配当込み・円換算ベース)です。詳細は3ページをご参照ください。ベンチマークは、作成期首(2017年9月12日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の変動要因

(上 昇) プラユット暫定首相が民政復帰に向けた総選挙を行なう方針を表明したこと、2017年7～9月期の実質GDP(国内総生産)成長率が市場予想を上回ったこと、原油価格の上昇を背景にエネルギー株が買われたこと、国内投資家からの資金流入が続いたこと、対円でタイの通貨バツが上昇したこと

(下 落) 米金利上昇懸念から世界的に株安となったこと、米中貿易摩擦への懸念が高まったこと、国内大手銀行による収益見通しの引き下げが懸念されたこと

(上 昇) 米中貿易摩擦懸念が後退したこと、中国ネット通販大手による経済特区への投資が好感されたこと

(下 落) 米中貿易摩擦の激化が懸念されたこと、総選挙の早期実施を求めるデモの発生を受け国内政情不安が嫌気されたこと、米国の長期金利上昇を背景に外国人投資家からの資金流出が加速したこと、対円でバツが下落したこと

(上 昇) 好決算を発表した銀行株が上昇したこと、外国人投資家からの資金が流入に転じたこと、2018年4～6月期の実質GDP成長率が市場予想を上回ったこと

## 1万口当たりの費用明細

(2017年9月13日～2018年9月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 327	% 1.782	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(158)	(0.864)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(158)	(0.864)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	( 10)	(0.054)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	37	0.200	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	( 37)	(0.200)	
(新株予約権証券)	( 0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	2	0.011	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	( 2)	(0.011)	
(新株予約権証券)	( 0)	(0.000)	
(d) その他費用	32	0.175	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 31)	(0.170)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	( 1)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	( 0)	(0.002)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	398	2.168	
期中の平均基準価額は、18,329円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

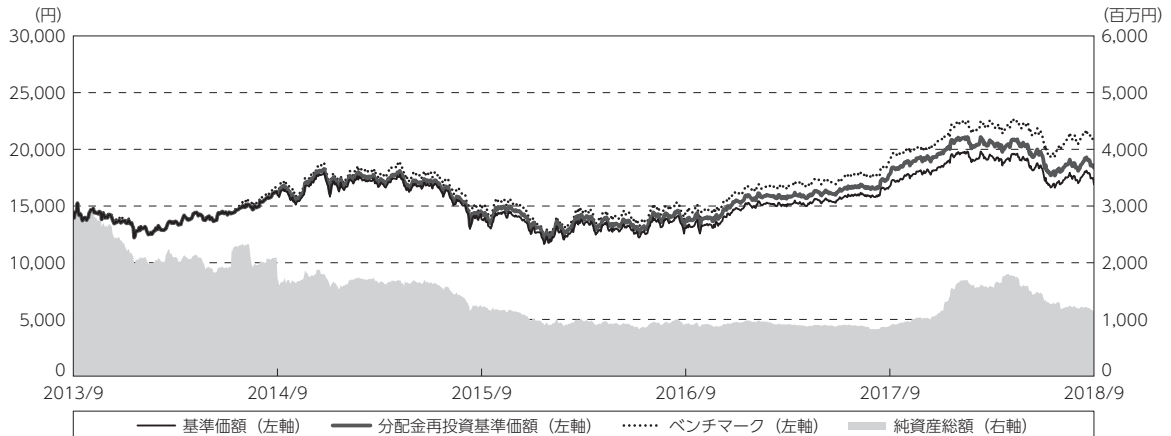
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2013年9月12日～2018年9月12日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2013年9月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、MSCI Thailand Index (税引後配当込み・円換算ベース)です。詳細は以下をご参照ください。ベンチマークは、2013年9月12日の値が分配金再投資基準価額と同一となるように計算しております。

	2013年9月12日 決算日	2014年9月12日 決算日	2015年9月14日 決算日	2016年9月12日 決算日	2017年9月12日 決算日	2018年9月12日 決算日
基準価額 (円)	14,225	15,970	13,822	12,962	16,520	16,906
期間分配金合計(税込み) (円)	—	300	200	150	300	350
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	14.4	△ 12.2	△ 5.1	29.8	4.5
ベンチマーク騰落率 (%)	—	17.4	△ 10.7	△ 4.6	31.8	10.4
純資産総額 (百万円)	2,913	1,731	1,215	917	866	1,123

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。

\*ベンチマーク (= MSCI Thailand Index (税引後配当込み・円換算ベース)) は、MSCI Thailand Index (税引後配当込み・タイパーズベース) をもとに、当社が独自に円換算したものです。なお、指数算出にあたっては、基準価額への反映を考慮して、営業日前日の指数値を営業日当日の為替レート (対顧客電信売買相場仲値) で円換算しております。

\* MSCI Thailand Index は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(出所) ブルームバーグ、為替レート (対顧客電信売買相場仲値)

**投資環境**

(2017年9月13日～2018年9月12日)

タイの株式市場は、期初、プラユット暫定首相が民政復帰に向けた総選挙を行なう方針を表明したことや原油価格の上昇を受けエネルギー株が買われたことなどを背景に上昇して始まりました。その後も、2017年7－9月期の実質GDP成長率が市場予想を上回ったことや、景気回復への期待から国内投資家からの資金流入が続いたこと、世界的な株高などを背景に続伸しました。2018年3月以降は、米長期金利上昇への警戒や米中貿易摩擦への懸念、国内大手銀行の収益見通し悪化などが嫌気され下落しましたが、原油価格の上昇や中国ネット通販大手による経済特区への投資が好感され再び上昇しました。5月以降は、米中貿易摩擦の激化や米長期金利上昇を背景とした資金流出の加速、またパーツ安などが懸念材料となり下落基調で推移しました。その後は、大手銀行が好決算を発表したことや外国人投資家からの資金が流入に転じたこと、4－6月期の実質GDP成長率が市場予想を上回ったことなどが好感され反発しました。当期においてタイ株式市場は上昇しました。

一方、為替市場では、国内の景気回復への期待から円安・パーツ高で推移し、米長期金利上昇への警戒から一時的にパーツ安が進行したものの、期末にかけて再び上昇し、当期において円安・パーツ高となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2017年9月13日～2018年9月12日)

## [野村タイ株マザーファンド]

## ・期中の主な動き

## &lt;投資比率を引き上げた主な業種・銘柄&gt;

- ①同業他社の買収による市場シェアの拡大や、堅調な製品価格の推移から業績拡大が見込まれると判断したINDORAMA VENTURES-FOREIGN (化学)
- ②国内経済の回復に伴う資金需要の高まりが見込まれ、バリュエーション (投資価値評価) が割安と判断したBANGKOK BANK (F) (銀行)

## &lt;投資比率を引き下げた主な業種・銘柄&gt;

- ①不良債権処理の遅れや、費用の増加が懸念されたSIAM COMMERCIAL BANK (F) (銀行)
- ②競合他社による新規の設備投資などにより、需給環境の悪化が懸念されたPTT GLOBAL CHEMICAL PCL-FOREIGN (化学)

## ・為替ヘッジ

当ファンドの方針に従い、為替ヘッジ (為替の売り予約) は行ないませんでした。

## [ノムラ・アジア・シリーズ (ノムラ・タイ・フォーカス)]

## ・組入比率

主要投資対象である [野村タイ株マザーファンド] 受益証券を、期を通じておおむね高位に組み入れました。

## ・為替ヘッジ

当ファンドの方針に従い、為替ヘッジは行ないませんでした。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年9月13日～2018年9月12日)

当期は、ベンチマーク（MSCI Thailand Index（税引後配当込み・円換算ベース））が10.4%の上昇となったのに対して、基準価額は4.5%の上昇となりました。

※基準価額の騰落率は、分配金（税込み）を再投資して算出しております。

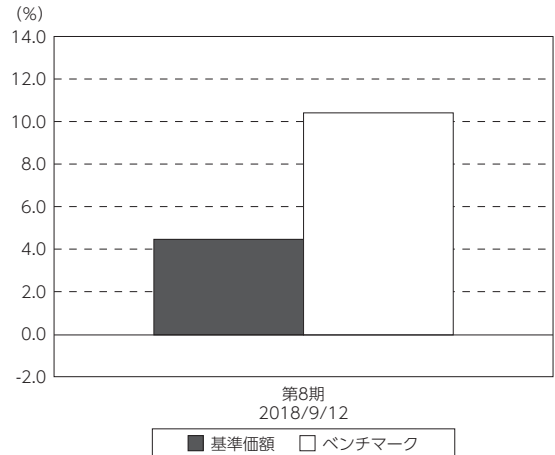
## (主なプラス要因)

- ①原材料価格の上昇や、セメント需要の低迷により業績悪化懸念が強まったことなどから、株価騰落率がベンチマークを下回った建設資材株をアンダーウェイト（ベンチマークに比べ低めの投資比率）としていたこと
- ②他社の積極的な病院の開設により競争環境の悪化が懸念されたことなどから、株価騰落率がベンチマークを下回ったヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス株をアンダーウェイトとしていたこと

## (主なマイナス要因)

- ①原油価格の上昇を受けて、株価騰落率がベンチマークを上回った石油・ガス・消耗燃料株をアンダーウェイトとしていたこと
- ②業績見通しの引き下げを発表したことなどから、株価騰落率がベンチマークを下回った専門小売り株をオーバーウェイト（ベンチマークに比べ高めの投資比率）としていたこと

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、MSCI Thailand Index（税引後配当込み・円換算ベース）です。

## 分配金

(2017年9月13日～2018年9月12日)

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準等を勘案し、1万口当たり350円とさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項目	第8期	
	2017年9月13日～2018年9月12日	
当期分配金	350	
(対基準価額比率)	2.028%	
当期の収益	58	
当期の収益以外	291	
翌期繰越分配対象額	6,906	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率は異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### [野村タイ株マザーファンド]

#### ・投資環境

タイ経済は、堅調な輸出などを背景に、良好な経済環境が続いています。4－6月期の経済成長率は前年同月比+4.6%と市場予想を上回りました。自動車生産の拡大が続いていることや、農家所得が増加していることなどから、消費者心理の改善と合わせて、今後も幅広い消費の改善が見込まれます。総選挙のスケジュールについては、首相が改めて2019年2月の予定に言及しましたが、不透明感が残る状況です。引き続き、総選挙の実施に向けたプロセスの進捗状況や政治情勢の変化を注視する考えです。

株式市場については、外国人投資家からの資金流出が続いているものの、足元で投資家心理の改善が見られています。バリュエーションはMSCIタイ指数（2018年8月末時点）で見ても、実績PER（株価収益率）で約16倍と、過去5年平均をわずかに上回る水準となっていますが、過去5年と比較して堅調な経済環境が続いていることから、足元の株価水準に極端な割高感はないと見ています。良好な経済環境に加えて、経常収支の黒字を背景とした国内の豊富な流動性が株式市場を下支えすると見ています。

#### ・投資方針

投資戦略は、観光客数の増加や国内景気の回復の恩恵を受ける運輸株や一般消費財・サービス株、不動産株の投資比率を高めとする一方、需給環境の悪化が懸念される素材株、競争環境の改善が見込みにくい電気通信サービス株や金融株、業績拡大の余地が少ない公益事業株の投資比率を低めとする方針です。また、株価に出遅れ感があり中長期での収益成長が見込まれる銘柄については、幅広い業種で買い増しを検討しています。一方、株価上昇の材料が乏しく、バリュエーションが割高と思われる銘柄については投資比率を引き下げる方針です。

### [ノムラ・アジア・シリーズ (ノムラ・タイ・フォーカス)]

[野村タイ株マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、信託財産の成長を目指して積極的な運用を行ないます。実質組入外貨建資産については、引き続き、為替ヘッジを行なわない方針です。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## お知らせ

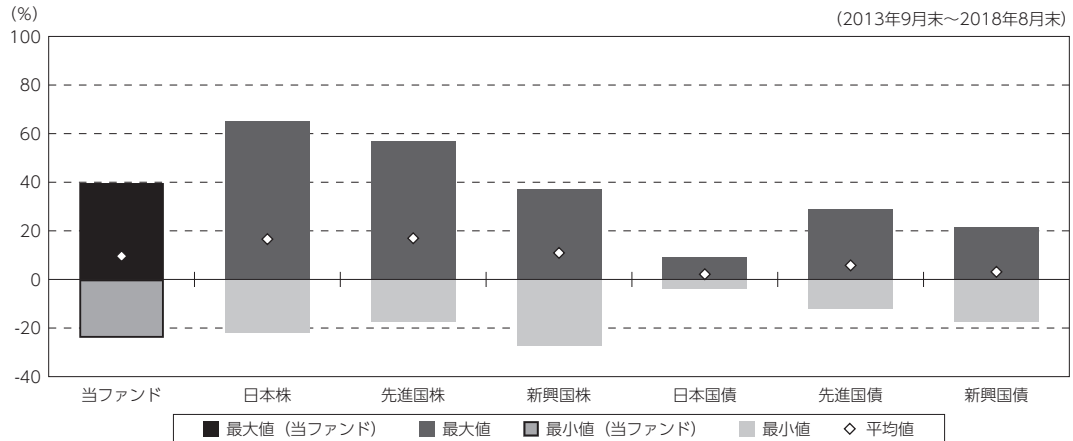
信託期間を5年更新し、信託期間終了日を2024年9月12日とする所要の約款変更を行いました。  
 <変更適用日：2018年6月8日>

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2010年12月6日から2024年9月12日までです。	
運用方針	野村タイ株マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、主としてタイの企業の株式に投資し、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。 実質組入外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	ノムラ・アジア・シリーズ (ノムラ・タイ・フォーカス)	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	タイの企業の株式を主要投資対象とします。
運用方法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてタイの企業の株式に実質的に投資を行い、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	39.7	65.0	57.1	37.2	9.3	29.1	21.4
最小値	△ 24.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	9.6	16.6	16.9	10.9	2.1	5.8	3.1

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2013年9月から2018年8月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

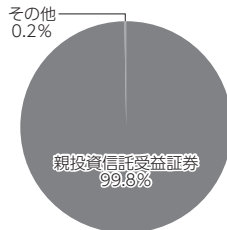
## 組入資産の内容

(2018年9月12日現在)

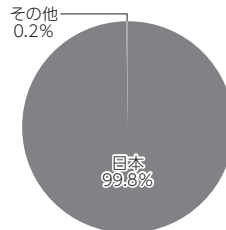
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第8期末
野村タイ株マザーファンド	99.8%
組入銘柄数	1銘柄

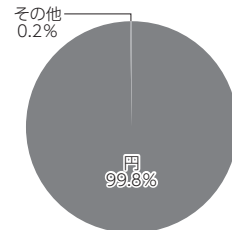
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第8期末
	2018年9月12日
純資産総額	1,123,699,364円
受益権総口数	664,656,872口
1万円当たり基準価額	16,906円

(注) 期中における追加設定元本額は537,024,318円、同解約元本額は396,690,926円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 野村タイ株マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2017年9月13日~2018年9月12日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株式) (新株予約権証券)	45 (45) (0)	0.200 (0.200) (0.000)
(b) 有価証券取引税 (株式) (新株予約権証券)	2 (2) (0)	0.011 (0.011) (0.000)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	39 (39) (0)	0.172 (0.171) (0.002)
合計	86	0.383

期中の平均基準価額は、22,700円です。

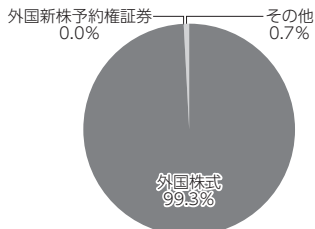
(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

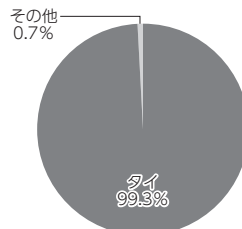
(2018年9月12日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	PTT PCL(F)	石油・ガス・消耗燃料	タイバーツ	タイ	18.6
2	CP ALL PCL-FOREIGN	食品・生活必需品小売り	タイバーツ	タイ	13.6
3	AIRPORTS OF THAILAND PCL(F)	運送インフラ	タイバーツ	タイ	11.0
4	INDORAMA VENTURES-FOREIGN	化学	タイバーツ	タイ	7.7
5	KASIKORN BANK PCL(F)	銀行	タイバーツ	タイ	7.4
6	CENTRAL PATTANA(F)	不動産管理・開発	タイバーツ	タイ	7.0
7	BANGKOK BANK(F)	銀行	タイバーツ	タイ	4.1
8	CH.KARNCHANG PUBLIC CO LTD (F)	建設・土木	タイバーツ	タイ	3.1
9	PTT EXPLORATION & PRODUCTION (F)	石油・ガス・消耗燃料	タイバーツ	タイ	2.9
10	IRPC PUBLIC COMPANY LIMITED (F)	石油・ガス・消耗燃料	タイバーツ	タイ	2.4
	組入銘柄数		28銘柄		

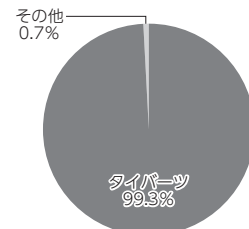
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。  
 (注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### ○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、株式会社東京証券取引所 (㈱東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(㈱東京証券取引所) が有しています。なお、本商品は、(㈱東京証券取引所) により提供、保証又は販売されるものではなく、(㈱東京証券取引所) は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

### ○MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

### ○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

### ○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

### ○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます) についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持って、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受、プレースメント、エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」と呼びます) (「指数スポンサー」) は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)





## ＜お申し込み時の留意点＞

販売会社の営業日であってもお申し込みの受付ができない日（以下「申込不可日」といいます。）があります。

お申し込みの際には、これらの申込不可日に該当する日をご確認のうえ、お申し込みいただきますようお願いいたします。

(2018年9月12日現在)

ファンド名 年 月	ノムラ・印度・ フォーカス	ノムラ・韓国・ フォーカス	ノムラ・台湾・ フォーカス	ノムラ・アセアン・ フォーカス	ノムラ・豪州・ フォーカス
2018年9月	13、20	25、26	－	－	－
10月	2、18	3、9	10	－	－
11月	7、8	－	－	6、20	－
12月	25	25	－	25	25、26

ファンド名 年 月	ノムラ・インドネシア・ フォーカス	ノムラ・タイ・ フォーカス	ノムラ・フィリピン・ フォーカス
2018年9月	－	－	－
10月	－	15、23	－
11月	20	－	1、2、30
12月	25	5、10	25

※ 2018年12月までに該当する「申込不可日」を現時点で認識しうる情報をもとに作成しておりますが、諸事情等により突然変更される場合があります。

したがって、お申し込みにあたってはその点についても十分ご留意下さい。また、諸事情等による申込不可日の変更は、販売会社に連絡いたしますので、お問い合わせ下さい。

なお、弊社ホームページ (<http://www.nomura-am.co.jp/>) にも掲載いたしております。